

人の知恵と都合と  
愛とエゴが解け合って  
”希望”が生まれた。

令和5年度 文部科学省選定作品  
HTB開局55周年記念映画

# 奇跡の子

夢野に舞う

ナレーター 上白石萌音

監督：沼田博光 統括プロデューサー：坂本英樹 プロデューサー：四宮康雅 堀江克則 撮影：小山康範 石田優行 編集：上田佑樹 音楽：中村幸代  
宣伝プロデューサー：泉谷裕 製作・配給：北海道テレビ放送 宣伝・配給協力：東映エージェンシー

カラー / 5.1ch / 16:9 / 1時間37分 / ©HTB All rights reserved 2024

[www.htb.co.jp/kisekinoko/](http://www.htb.co.jp/kisekinoko/)

1/20 (SAT.)  
公開

100年前の光景を再び…タンチョウを呼び戻す、  
叶わぬ夢を追いつづけた14人の農民たち  
長期密着で捉えた過疎の農村で起きた奇跡のドキュメンタリー



ナレーター  
上白石萌音

# 再び呼ぶ 冬 タ ン チ ョ



2020年6月、HTB(北海道テレビ放送)はドキュメンタリーTV番組「たづ鳴きの里」を放送。明治期の乱獲などで姿を消してしまったタンチョウを再び町に呼び戻そうと、夢に向かって奮闘する14人の農家たちの姿を伝えた。舞台は札幌近郊の長沼町。本取材は2015年から始まり、地域住民の活動や長沼町の美しい田園風景と自然の営み、そしてタンチョウが町に飛来し、ヒナを誕生させるまでに至った奇跡の物語を記録した。「たづ鳴きの里」は各界で評価され、科学技術映像祭の最高賞である「内閣総理大臣賞」やグリーンイメージ国際環境映像祭の「グリーンイメージ賞」など、栄えある賞を受賞。撮影はその後も継続。そして2024年新春、自然と人間の共生を描くドキュメンタリー映画「奇跡の子 夢野に舞う」として堂々完成しました。

**STORY** 農家は鳥に手を焼いている。撒いた種はほじくると、新芽が出ればバリカンで刈ったように食べつくす。張ったばかりのビニールハウスにはフンをかけていく。そんな農民たちが地元を鳥と呼ぶと言いつつ出した。それも絶滅危惧種のタンチョウだ。

北海道の東部にごくわずかししか生息していない希少種が大都市・札幌の近郊にある農村に来るはずもない。それでも14人の農家が集まり、タンチョウの棲み家づくりが始まった。治水対策で人工的に作られた遊水地の中に、タンチョウが生息できる「湿地」が回復してくると、やってくるのは予期せぬ訪問者ばかり。大量の渡り鳥に獐猛な外来種、カメラを抱えた人間たち…。次々と巻き起こるトラブル。果たしてタンチョウはやってくるのか？

ナレーター 上白石萌音〈俳優・歌手〉 北海道の長沼町を舞台にしたドキュメンタリー映画「奇跡の子 夢野に舞う」のナレーションを担当させていただきました。過疎化に悩む農家の皆さんが、子供たちに誇りあるふるさとを残すために奮闘する、奇跡の物語です。北海道の大自然の美しさはもちろん、人と動物が土地を分け合うというのはどういう事なのか？ という大切なテーマが、ありのままに映っています。私自身もとても勉強になりました。ぜひご覧ください。



監督:沼田博光 総括プロデューサー:坂本美樹  
プロデューサー:四宮康雅 堀江克則 撮影:小山康範 石田優行 編集:上田佑樹 音楽:中村寺代  
宣伝プロデューサー:栗谷 裕 製作・配給:北海道テレビ放送 宣伝・配給協力:東映エージェンシー  
カラー / 5.1ch / 16/9 / 1時間37分 / ©HTB All rights reserved 2024 [www.htb.co.jp/kisekinoko/](http://www.htb.co.jp/kisekinoko/)

人の知恵と都合と愛とエゴが解け合って、希望“が生まれた。”



▲公式HP